

Publisher's Review

パブリッシャーズ・レビュー

●東京大学出版会・白水社・みすず書房のPR紙●



みすず書房の本棚

[無料送付]

No. 24 2017 秋

(表示価格は税別です)

113-0033 東京都文京区本郷 5-32-21 tel. 03-3814-0131 http://www.msz.co.jp

レニングラード包囲戦下の レーナの孤独のグルメ

——エレナ・ムーヒナ『レーナの日記』を読む

荷宮和子

「すべての自然を、ひとつ残らず原
子にいたるまで研究したい」
「ああ、わたしはなんて薄っぺらな
人間になってしまったのか。考える
ことも書くことも、食べ物のことば
かり！」

ナチスドイツ軍によって封鎖され
た軍事下のレニングラードで十六歳
の少女が書いた『レーナの日記』は、
二つの部分からなる。
「わたし」によって描かれる「日記」
部分と、自らを「レーナ」という三
人称で描く最後の「一か月だ」。

日記の物語化は「あったことのす
べてを書きとめておかねばならな
い」という呪縛から書き手を解放す
る。あるいは「なかったことは書い
てはいけない」という呪縛からも自
由になる。そう考えれば合点がいく

一九四一年六月、独ソ戦が勃発
九月、ナチス・ドイツ軍はレニング
ラードの包囲を完了する。たえまな
い爆撃が街を襲い、食料と燃料の補
給が切断され、飢餓が始まる。人々
は犬や猫をスープにし、革ベルトや
コートの毛皮を煮て食べ、イラクサ
や樹皮の料理法を伝えあう。包囲は
八七二日にわたり、八十万人以上が
犠牲となった。

十六歳のレーナは腹いっぱい食べ
ることを夢見ながら、日記を書き続
ける。空襲の恐怖、食事の記録、学
校や労働、読書、恋、未来への希望。
そして母の餓死により、レーナはひ
とに残された。

酷寒のなか、配給券でそば粥を
買って帰宅、お湯を足してスープに
し、ビスケットを砕いて量を増やし、
お腹をふくらませて眠りにつく。
「頁よ、私の悲しい物語を保存して」

飢餓の日々——発掘された証言

エレナ・ムーヒナ

《レーナの日記 レニングラード包囲戦を生きた少女》

佐々木寛・吉原深和子訳



レーナ
(本名はエレナ)

だ。

本当に毎朝パンは買えたのか？
学校でスープは飲めたのか？
学校が閉鎖中、片思いの同級生、
痩せてきてやつれてしまったヴォー
ヴァに道で偶然、レーナは本当に出
会えたのか？

映画「シックスセンス」のラスト
を見終えたあと、もう一度ブルース
・ウィリスの一手一投足を確認しな
がら二回目をみる。その時と同じ要
領で「レーナ物語」を読み解いてい
くと、日記部分以上に深い、闇と絶

望の存在がわかる。
「わたし」で書かれた日記部分を読
み進めると、だんだんと「わた
しがもてないのはどう考えてもおま
えたちが悪い！」のヒロインが思い
浮かんでくる。そう、レーナは喪女
なのだ。

喪女なればこそレーナは、食ひし
ん坊で記憶力がよく、早口で自意識
過剰で中二病だ。リア充の集まりの
第三十学校の面子(メンツ)とはそ
りがあわない。そしてレーナはそん
な自身のことを自覚して文章化して
書き記す。だって、それが喪女なの
だから。

その成り立ちから、「少女少女に
戦争の現実を教えよう」的な形でこ
の本をすすめるひとたちもいるだろ
う。だが、反戦の「ために」する読書
「ために」させる読書に意味はない。

レーナは恐ろしい不安な日々、食
べ物、そして自分が信頼と愛情を寄
せた人びとへの想いを綴りつづけ
る。食欲と言葉にしがみつくことで
生きのびていく。

日記には平和をかううじて保って
いた最後の「一か月」から開戦、そし
て包囲戦中の最悪の時期とされる
一九四一年の冬から春が記述され、
レーナが包囲から脱出するのを目前
に、突然に途切れた。その後、レー
ナはどうなったのか？

一九六二年、日記は不
詳の人物によりレニング
ラード国立中央政治歴史
文書館に届けられ、ソ連
邦の終焉をへて眠って
いた。二十一世紀になって
歴史学者が発掘、出版さ
れるや、「レニングラー
ドの『アンネの日記』

それよりも喪女レーナが書き始め
て、未完形で終わった「レーナ物
語」の深層心理を読み解く方がよほ
ど楽しい。

ちなみに、作家はエッセイや日記
に本音を書くに限らない。たとえば
池波正太郎の小説とエッセイを合わ
せて読むことで、特に、母への深い
愛情と父への恨みがうかんできると
エッセイには建前を、小説には本音
を書いていたことが見て取れるから
だ。

だとすれば、レーナ物語がもつと
進んでいけば、母や同居する英国人
老女の餓死ももう少しめかしこんで
書かれたかもしれない。まだそれど
ころじゃなかったのだ！

そしてラストのイラクサと肉のス
ープ。
アパート管理人のサーシャおばさ
んが肉なしのスープなのに、母も親
友も片思いの相手も身近から失った
このとき、レーナが肉入りスープを
作ろうとするところで日記は唐突に
終わる。

普通なら、また爆撃が激しくなっ
たか、あるいはレニングラードを脱
出することになって、日記を書いて
いるどころではなくなった、と考
えるところだろう。

として話題になった。
「ゆっくり地獄に落ちていく時に状
況と思考を記述しよう」とし、本能が
むき出しになってもなお、人間性の
表面にとどまろうとする時の人間の
文章」(原書出版人のコメント)。

歴史学者たちはレーナのその後を
調査、一九九一年まで生きていたひ
とりの庶民の生涯を描き出して、本
書は閉じられる。

【歴史・海外文学】【九月下旬刊】
(四六判・352頁・予価三四〇〇円)



だが少し待つてほしい。レーナは
妄想力に優れた喪女なのだ。手が凍
えて、出しているのさえつらいとき
でさえ、「日記を書きたくてたまら
ない」少女だったのだ。
それを思えば、平時とは異なる状
況についての厳しい描写も「大変だ
ったんだなあ……戦争」という安易
な受け取り方をすべきではない。
彼女はまず日記を書き始めた。戦
争が始まる前、おそらくはヴォーヴ
アへの恋心に気づいて以降、そんな
自身のことを書きとめておこうと思
ったのだ。そして途中、これは日記
という形式よりもレーナ物語という
形式をとった方が都合がいいぞと気
づいたレーナは、現実を物語化して
書きとめていく。
ではなぜラストは、ヴォーヴァと
の再会等ではなく肉入りイラクサス
ープの描写なのか。
「さあ、今日もしっかり食べよう！」
という姿を描くことで「わたしの冒
険は始まったばかりだ！」というこ
とを描きたかったのではないか。「少
年ジャンプ」なら打ち切りのパター
ンだが、そのかわり柱部分には「レ
ーナ先生の次回作にご期待くださ
い！」の文字が躍る。次回作などな
いことも多いのだが。
包囲された都市からの脱出が迫っ
たとき、彼女はこれ以上続けても「レ
ーナの日記」に「レーナの孤独のグ
ルメ」という妄想物語になってしま
うと自覚したから、あえて筆を折っ
たのかもしれない。実際、食べ物部
分の描写は、他の日常や人間関係部
分の描写に比べても秀でている。
そんな大きなお世話なことを考え
ながら読むのもまた、日記文学の醍
醐味だ。(にみや・かずこ 女子供
文化評論家、文筆家)

▽『パブリッシャーズ・レビュー』み
すず書房の本棚』は、みすず書房が
年四回発行する出版情報紙です
▽本紙ご送付の継続をご希望の方は
お知らせ下さい。お手数ではござい
ますが、挟込のハガキもしくはメー
ル (sales@msz.co.jp) にて、お名
前・ご住所・本紙帯封コードとも
に「継続希望」とお知らせ願います

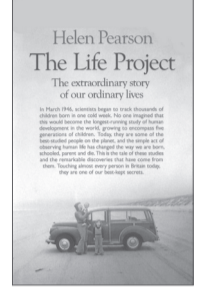
1946年3月、終戦直後のイギリスで、科学者たちが数千人の赤ちゃんたちを追跡しはじめた。赤ちゃんの身にふりかかる、あらゆることを記録しようというこの研究が、まさかその後、ヒトの成長についての世界最長の研究になることは、だれも予測していなかった。

ヒトの人生を観察し続けるというこの一見シンプルな研究、すなわち「コホート研究」は、疫学と経済学に大きな果実をもたらすことになる。

下層の子どもたちは学校で後れをとっているだけではなかった——平均身長が低く、言語障害が多く、歯医者に行かなかった。さらに、さらには「妊娠中に喫煙していた母親の子どもは、喫煙していなかった母親の子どもよりも、平均身長が低く、教育テストで

世界を変えた、ある研究の物語

ヘレン・ピアソン
《ライフ・プロジェクト 7万人の一生からわかったこと》
大田直子訳



の成績が良くない。たとえば、字が読めるようになる年齢は、喫煙しない母親の子どもよりも約4カ月遅い。これらの影響が時間とともに消える兆しはない。1958年生まれの成人早期に達するころまでに、妊娠中に喫煙した母親の子どもたちのほうが学歴は低く、生まれたときは小さい赤ん坊だったにもかかわらず、肥満になるリスクが高い。

こうした多くの成果はもろろん、科学者が直面した財政的苦悩、政治と科学の緊張関係といった詳細な研究プロジェクトをも追った初のノンフィクション。【十月上旬刊】(四六判376頁・予四五〇〇円)

崩壊を準備した静かな時期

A・ユルチャク 《最後のソ連時代》
半谷史郎訳 プレジネフからレストロイカまで

約二五年前、強大で安定した体制だと誰もが思っていたソ連は、突然ガタガタになり、あつという間に消えてしまった。ソ連崩壊とは一体何だったのだろうか？ その鍵は、ブレジネフ時代にあった。粛清も改革もないこの静かな時期が、着々と崩壊を準備していたのだ。しかも内側から。ソ連の人びとは党の命令を守りつつ、西側のロックやファッションを楽しんでいた。それは二枚舌とも違う、ソ連独特の感覚だった。この「約束ごとを守りながら体制を形骸化させる」ライフスタイルは、じつはソ連体制の必然的な帰結であり、ソ連は自らも、みずから内側から壊す下地を作ったことになる。

第一人者が遺した自選論文集

齋藤眞 《第一人者が遺した自選論文集》
古矢旬・久保文明編 自然と作為

転換期を迎えたアメリカを知るために、なにより建国以来現在までを貫くアメリカを理解するために、高い学術レベルで全体を見据えて研究してきたアメリカ研究第一人者が、生前に自身で編んで遺した論文集。建国前後の政治と宗教の実態から、その水脈がその後の外交・戦争・大統領、議会などどう現れてくるか。アメリカの反知性主義

先住民の実存を掬いあげる

網野徹哉 《インディオ社会史》
アンデス植民地時代を生きた人々

「インディオ社会史」には、この重い響きとともに水底に触れる瞬間。そのような感覚とともに、ごく偶々かではあるが、インディオたちの魂に触れたのではないかと、微かな思いを手にすることがあるのだ。(謝辞と解題) 近世グローバル化の渦中にあるアンデス植民地世界。征服後十八世紀の独立革命に先立つ、植民地社会の成熟期とされてきた時代を舞台に、誤訳の責を一身に負

一枚の切符

あるハンセン病者のいのちの綴り方
崔南龍 生きることが抵抗である。癪の語り部が現代社会へ語りかける。病と民族による差別との闘いと療養所の百年。二六〇〇円

いかにして民主主義 新自由主義は失われていくのか 見える攻撃
ブラウン 今や民主主義は内側から破壊されている。経済の見かけを維持した統治のメカニズムを鮮やかに解剖。中井俊彦訳 四二〇〇円

トレブリンカの地獄
ワシリー・グロスマン 前期作品集
赤軍記者としてナチの絶滅収容所を報じたルボフ・グロスマン。理想と独裁等、ソ連からの証言。赤尾光春・中村唯史訳 四六〇〇円

みすず書房新刊

- 原理 ハイゼンベルクの軌跡
フェラーリ 量子力学を革新した天才のたった歴史のドラマを隠喩にみちた二人称でたどる。最新理系小説。辻由美訳 二八〇〇円
- 精神分析再考 アタッチメント理論とクライエント中心療法の経験から
林もも子 精神分析はもはや「過去の遺物」なのだろうか？ 伝統的概念を多様な技法による臨床経験を通して描きなおす。三六〇〇円
- 世界中における索引と徴候 1907-1907
「昭和」を送る。「家族の深淵」など、多様な分野をテーマに精神科以外の読者を獲得していた時期の文章二六編を収録。三〇〇〇円
- ジャコメッティ エクリ 「新装版」
未知という空虚に向かっていたはず語り続けた彫刻家の言葉と対話。手紙や紙葉集で集成。矢内原史郎・吉田訳 六四〇〇円
- ゾルゲの見た日本 「新装版」
みすず書房編集部 スパイとして、ジャーナリストとして、知識人として。日本に関する論考七篇と「秘密通信」収録。二六〇〇円
- 東京裁判における通訳 「新装版」
武田純代子 法廷内リアルなコミュニケーション過程を明らかに。通訳学の専門家による。政治社会学との架橋の成果。四二〇〇円
- サリヴァンの精神科セミナー 「新装版」
クヴァニス/パロフ編 サリヴァンの考えがけられた面接法を実践的に例示した、症例研究セミナー実録。中井久夫訳 六二〇〇円
- 解離 若年期における 「新装版」
パトナム 病としての児童虐待や性的虐待、多重人格障害の診断と治療…… 危殆の問題に方向性を示す。中井久夫訳 八〇〇〇円
- ファン・ゴッホの手紙 「新装版」
生きている意味と絵画への専心と、永遠に読者を魅きつづけるゴッホの手紙。全貌を示す選集。決定版。二見編訳 関野寺訳 五五〇〇円
- エミリー・ディキンソン家のネズミ 「新装版」
スパイアズ/絵ニッソラ ひきこもりの詩人とネズミの密やかな友情物語。新訳の詩が楽しめる大人の絵本。長田弘訳 一七〇〇円
- 電子書籍 配信開始 7月
大不平等 ミラノウィッチ (右にご紹介) (第16回) 新潮キエヌエム賞 受賞
子どもたちの階級闘争 プレイティムかこ 希望小売価格 一四〇〇円

研修医時代、思想の原点

北山修編著 《研修医時代、思想の原点》
飯島みどり・大森智恵解説

フォーカス解説後、音楽と決別した北山修は精神科医になるためイギリスに留学する(一九七四-七五)。そこで出会った精神分析の、臨床実習(四六判・304頁・二八〇〇円)

好評既刊 ガワンデ「死すべき定め」の強迫観念をもった女性症例「ある男性神経症者」の治療記録である。北山が人間文化の基底にある

「内なる外国人」

A 病院症例記録

と考える「言葉の二重構造・多義性」「人はみな旅人」の思想の原点にある二症例であり、以来、独自の視点で深化・展開させてきた理論(「見る」の禁止)「言葉の橋渡し機能」「共視論」(ec)への理解が広がる貴重な記録。症例解説とイギリス精神分析療法法を紹介論説を付す。「精神医学・精神分析」(十月上旬刊) (A5判224頁・予三〇〇〇円)

サン・レイ・レイの橋

「サン・レイ・レイの橋」「わが町」「危機一髪」でデビューしたアメリカ文学史にその名を轟かす劇作家、小説家ソントン・ワイルダー(一九一七-一九七五)が古代ローマ最大の英雄カエサル暗殺の日までの心理劇を描き出した書簡体小説。妻ボンベア、悪女クロディア、詩人カトゥッルス、愛人クレオパトラ……政治のかけひき、恋のさぐりあいの蠢く人間関係のなかで、カエサルが本心を吐露できるのは無二の親友トルリヌスのみ——「ローマには四人、僕が最も尊敬している男たちがいる。だがそのうち三人は僕を殺したいほど憎んでいる。ブルートウス、カトー、それ

「テニスプレーヤー、オポエ奏者などと同じく、医師も上達するには練習が欠かせない。ただし医師には一つだけ違いがある。それは、練習台が人間であるという点だ。」

腰痛、吐き気、肥満……私たちにとって身近な病いでも、医療にはなぜミスがつきまとい、医師にも思い通りにならないことが多いのか？

研修先の病院で医療の不完全さを知るうちに、ガワンデはあることに気づく——咳がいつまでも止まらないときに人々が頼りにするのは、完全な科学知識などではなく熟練した医師なのだ。



ガワンデ、衝撃のデビュー作

A・ガワンデ 《予期せぬ瞬間》
古屋・小田嶋訳 医療の不完全さは乗り越えられるか

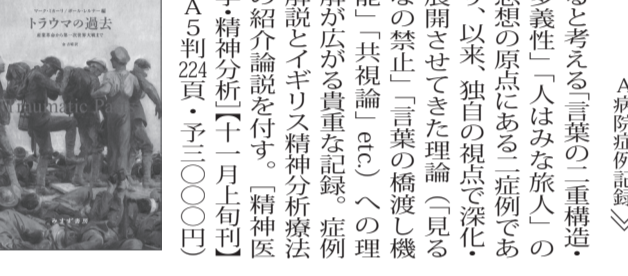
全米で九〇万部突破のベストセラー『死すべき定め』の著者が研修医時代に著した衝撃のデビュー作、『コード・ブルー』新版。

「医療・ノンフィクション」(四六判・304頁・二八〇〇円)

歴史、文化、精神医学

M・ミカエリ編 《トラウマの過去》
P・レナール編 《トラウマの過去》
金吉晴訳 産業革命から第一次世界大戦まで

二十世紀の多くの破壊行為と社会変動の間に、「トラウマ」という言葉は臨床医学の枠を超えてわれわれの日常にも溢れるようになった。本書は、トラウマがなぜ心の傷と補償問題……(ヘトラウマの時代)に翻弄された欧米諸国や医学者たちの姿は、今日のわれわれにいくつものモデ



暗殺の日までの心理劇

ソントン・ワイルダー
《カエサルの3月15日》
志内一興訳

「サン・レイ・レイの橋」「わが町」「危機一髪」でデビューしたアメリカ文学史にその名を轟かす劇作家、小説家ソントン・ワイルダー(一九一七-一九七五)が古代ローマ最大の英雄カエサル暗殺の日までの心理劇を描き出した書簡体小説。妻ボンベア、悪女クロディア、詩人カトゥッルス、愛人クレオパトラ……政治のかけひき、恋のさぐりあいの蠢く人間関係のなかで、カエサルが本心を吐露できるのは無二の親友トルリヌスのみ——「ローマには四人、僕が最も尊敬している男たちがいる。だがそのうち三人は僕を殺したいほど憎んでいる。ブルートウス、カトー、それ

暗殺の日までの心理劇

ソントン・ワイルダー
《カエサルの3月15日》
志内一興訳

「サン・レイ・レイの橋」「わが町」「危機一髪」でデビューしたアメリカ文学史にその名を轟かす劇作家、小説家ソントン・ワイルダー(一九一七-一九七五)が古代ローマ最大の英雄カエサル暗殺の日までの心理劇を描き出した書簡体小説。妻ボンベア、悪女クロディア、詩人カトゥッルス、愛人クレオパトラ……政治のかけひき、恋のさぐりあいの蠢く人間関係のなかで、カエサルが本心を吐露できるのは無二の親友トルリヌスのみ——「ローマには四人、僕が最も尊敬している男たちがいる。だがそのうち三人は僕を殺したいほど憎んでいる。ブルートウス、カトー、それ

暗殺の日までの心理劇

ソントン・ワイルダー
《カエサルの3月15日》
志内一興訳

「サン・レイ・レイの橋」「わが町」「危機一髪」でデビューしたアメリカ文学史にその名を轟かす劇作家、小説家ソントン・ワイルダー(一九一七-一九七五)が古代ローマ最大の英雄カエサル暗殺の日までの心理劇を描き出した書簡体小説。妻ボンベア、悪女クロディア、詩人カトゥッルス、愛人クレオパトラ……政治のかけひき、恋のさぐりあいの蠢く人間関係のなかで、カエサルが本心を吐露できるのは無二の親友トルリヌスのみ——「ローマには四人、僕が最も尊敬している男たちがいる。だがそのうち三人は僕を殺したいほど憎んでいる。ブルートウス、カトー、それ

暗殺の日までの心理劇

ソントン・ワイルダー
《カエサルの3月15日》
志内一興訳

「サン・レイ・レイの橋」「わが町」「危機一髪」でデビューしたアメリカ文学史にその名を轟かす劇作家、小説家ソントン・ワイルダー(一九一七-一九七五)が古代ローマ最大の英雄カエサル暗殺の日までの心理劇を描き出した書簡体小説。妻ボンベア、悪女クロディア、詩人カトゥッルス、愛人クレオパトラ……政治のかけひき、恋のさぐりあいの蠢く人間関係のなかで、カエサルが本心を吐露できるのは無二の親友トルリヌスのみ——「ローマには四人、僕が最も尊敬している男たちがいる。だがそのうち三人は僕を殺したいほど憎んでいる。ブルートウス、カトー、それ

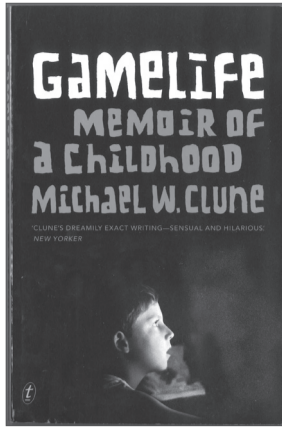
暗殺の日までの心理劇

ソントン・ワイルダー
《カエサルの3月15日》
志内一興訳

「サン・レイ・レイの橋」「わが町」「危機一髪」でデビューしたアメリカ文学史にその名を轟かす劇作家、小説家ソントン・ワイルダー(一九一七-一九七五)が古代ローマ最大の英雄カエサル暗殺の日までの心理劇を描き出した書簡体小説。妻ボンベア、悪女クロディア、詩人カトゥッルス、愛人クレオパトラ……政治のかけひき、恋のさぐりあいの蠢く人間関係のなかで、カエサルが本心を吐露できるのは無二の親友トルリヌスのみ——「ローマには四人、僕が最も尊敬している男たちがいる。だがそのうち三人は僕を殺したいほど憎んでいる。ブルートウス、カトー、それ

書評コラム

「七歳でプレイしたことがぼくを変えた。それはぼくに新しい成長の方向を与えた」ゲームと子どもの内なる関係、ありそうでなかった新しいタッチで綴るエッセイ。背景として垣間見えるのは、八〇年代アメリカの郊外地域の情景だ。レーガン信奉、第三次世界大戦の脅威論を煽るメディア、キリスト教保守派の影響など、いま振り返れば戯画的ですらある。その中で幼少期―少年期を過ごした「ぼく」の頭の中は、ゲームと身近な人々のことについてだった。



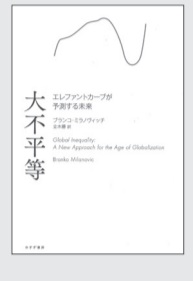
数字の力、地図の力、「ここではない」世界を想像すること、魔法と絶望、死について……みんなゲームが教えてくれた。ゲームは世界の新しい見方、センス・オブ・ワウンドの泉だった。だがそれと並行して、「ぼくの中の別の部分は、人から遠ざかる方向に育とうとしていた」

ぼくは黎明期のゲームに大事なことを教わった

マイケル・W・クルーン 《ゲームライフ》 武藤陽生訳

ピケティ『21世紀の資本』、アトキンソン『21世紀の不平等』、本書の3冊はグローバルゼーション礼賛派にとどめを刺すことになるだろう。彼らは「グローバルゼーションは世界レベルの格差を収斂させ、国内レベルの格差拡大はグローバルゼーションのせいではなく、主として産業構造の変化によるもの」で、そのためにはグローバル化の波に乗って成長を促進すべきだ、と主張する。しかし、ミラノヴィッチは、本書の最後でこうした主張をきっぱりと否定する。すなわち、「グローバルゼーションが続くことで不平等は消滅するか」との問いに、たった一行「しない」

水野和夫 ミラノヴィッチ 《大不平等》 立木 勝訳 を読む



グローバルゼーションの利益は均等には分配されないだろう」と答えて、本書を結んでいる。その理由は本書を読めば説得的である。著者はクズネツの逆U字型曲線では21世紀の先進国で生じてい

グローバル所得分布の第75―第90百分位に位置している人ひと、すなわちOECD加盟国の中間層および下位中間層である」

さらに、著者は「グローバルな中間層は今も貧しいし、資産もほとんどない」

こと、魔法と絶望、死について……みんなゲームが教えてくれた。ゲームは世界の新しい見方、センス・オブ・ワウンドの泉だった。だがそれと並行して、「ぼくの中の別の部分は、人から遠ざかる方向に育とうとしていた」



「映画とはそもそも宗教的なものである。……このことは製作と観賞のどちらにも当てはまるし、製作者や観賞者が信仰をもつか否かを問われない。リュミエール兄弟の『受難(ラ・パシオン)』に始まり、サイレントの時代から現代にいたるまで、イエス・キリストはあかも時代を映し出すかのようにその姿を変えて、映画史のなかに生きつづけている。本書は、イエスの伝記映画はもとより、聖書を原型とする物語やキャラクター、『受難』『原罪』などのテーマ、宗教画のアイコンや構図に由来する表現手法に息づくキリ

カルト、アイコン、クロスアップ 岡田温司 《映画とキリスト》

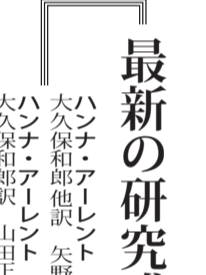
その「革命」は、静かにはじまった。一五三三年、ニコラス・コペルニクスが天動説から地動説へと理論を革新させた科学史第一級の古典全六巻を、ここに完訳。

「八月号」。アトウル・ガワンド「漸進主義は現代医療のヒーローだ」/ハリー・ハルトウニアン「我ら見まます」(九月号)他。(各三〇〇円)

と指摘する。その結果、グローバルなレベルでも国内レベルでも「深い溝」がでる。こうした状況はまさに「長い16世紀」に起きた「深い割れ目」(ブローデル『地中海』)と同じである。ブローデルは「この溝を埋め」(前面下に広告掲載)

「みすず」の連載から「経済学」の書評全文は、「国貧論」としてのグローバルゼーション「みすず」七月号掲載

「みすず」の連載から「経済学」の書評全文は、「国貧論」としてのグローバルゼーション「みすず」七月号掲載



最新の研究成果をふまえ、用語も一新

「全体主義の起原」(四六判) 1 反ユダヤ主義(360頁・四四〇〇円) 2 帝国主義(424頁・四八〇〇円) 3 全体主義(512頁・四八〇〇円)

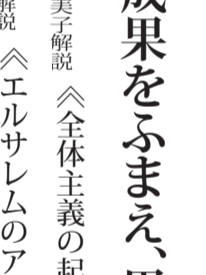
「全体主義の起原」(四六判) 1 反ユダヤ主義(360頁・四四〇〇円) 2 帝国主義(424頁・四八〇〇円) 3 全体主義(512頁・四八〇〇円)

「全体主義の起原」(四六判) 1 反ユダヤ主義(360頁・四四〇〇円) 2 帝国主義(424頁・四八〇〇円) 3 全体主義(512頁・四八〇〇円)



「全体主義の起原」(四六判) 1 反ユダヤ主義(360頁・四四〇〇円) 2 帝国主義(424頁・四八〇〇円) 3 全体主義(512頁・四八〇〇円)

「全体主義の起原」(四六判) 1 反ユダヤ主義(360頁・四四〇〇円) 2 帝国主義(424頁・四八〇〇円) 3 全体主義(512頁・四八〇〇円)



「全体主義の起原」(四六判) 1 反ユダヤ主義(360頁・四四〇〇円) 2 帝国主義(424頁・四八〇〇円) 3 全体主義(512頁・四八〇〇円)

「全体主義の起原」(四六判) 1 反ユダヤ主義(360頁・四四〇〇円) 2 帝国主義(424頁・四八〇〇円) 3 全体主義(512頁・四八〇〇円)

「全体主義の起原」(四六判) 1 反ユダヤ主義(360頁・四四〇〇円) 2 帝国主義(424頁・四八〇〇円) 3 全体主義(512頁・四八〇〇円)

「全体主義の起原」(四六判) 1 反ユダヤ主義(360頁・四四〇〇円) 2 帝国主義(424頁・四八〇〇円) 3 全体主義(512頁・四八〇〇円)

「全体主義の起原」(四六判) 1 反ユダヤ主義(360頁・四四〇〇円) 2 帝国主義(424頁・四八〇〇円) 3 全体主義(512頁・四八〇〇円)

「全体主義の起原」(四六判) 1 反ユダヤ主義(360頁・四四〇〇円) 2 帝国主義(424頁・四八〇〇円) 3 全体主義(512頁・四八〇〇円)

「全体主義の起原」(四六判) 1 反ユダヤ主義(360頁・四四〇〇円) 2 帝国主義(424頁・四八〇〇円) 3 全体主義(512頁・四八〇〇円)

「全体主義の起原」(四六判) 1 反ユダヤ主義(360頁・四四〇〇円) 2 帝国主義(424頁・四八〇〇円) 3 全体主義(512頁・四八〇〇円)

「全体主義の起原」(四六判) 1 反ユダヤ主義(360頁・四四〇〇円) 2 帝国主義(424頁・四八〇〇円) 3 全体主義(512頁・四八〇〇円)

「全体主義の起原」(四六判) 1 反ユダヤ主義(360頁・四四〇〇円) 2 帝国主義(424頁・四八〇〇円) 3 全体主義(512頁・四八〇〇円)

「全体主義の起原」(四六判) 1 反ユダヤ主義(360頁・四四〇〇円) 2 帝国主義(424頁・四八〇〇円) 3 全体主義(512頁・四八〇〇円)

「全体主義の起原」(四六判) 1 反ユダヤ主義(360頁・四四〇〇円) 2 帝国主義(424頁・四八〇〇円) 3 全体主義(512頁・四八〇〇円)

なぜ、いまアレントが重要なのか... 反ユダヤ主義 ユダヤ論集 1 山田正行他訳 6400円... アイヒマン論争 ユダヤ論集 2 齋藤純一他訳 6400円... アーレント政治思想集成 1 組織的な罪と普遍的な責任 2 理解と政治 齋藤・山田・矢野訳 [全2巻] 各5600円... アウグスティヌスの愛の概念 千葉真訳 3000円... アーレント=ブリュッヒャー往復書簡 大島おかり・初見基訳 8500円

大澤壽人(おおさわ・ひさと 一九〇六―五三)。神戸に生まれ育ち、交響曲や協奏曲はじめ千に及ぶ曲を世におくった天才作曲家、ボストン交響楽団で日本人として初めて指揮台に立ち、パリでも活躍したこの稀有な存在は、歿後なぜ突然忘れられてしまったのか。最近になって再発見・再評価が始まったのは、どのような理由からか。膨大な資料と聞き書きからその生涯と作品を見事に再構成した評伝。多彩な人物とともに、日本のクラシック音楽黎明期の詳細も伝える。

半世紀余の沈黙をへて蘇る

生島美紀子

《天才作曲家 大澤壽人 駆けめぐるボストン・パリ・日本》



きを放つていると思う。大澤壽人の生き様とその音楽には、先見性と先鋭性と先進性が常に見られる。…大澤壽人の音楽は、古い・新しいという議論を超えたところで、純粹に音楽で素晴らしいと思える響きを確実に持っている。そう、我々が日々扱っているのは決してオーソドックスではなく、クラシック音楽なのだ当たり前のことを気づかせてくれる作曲家だと言えるだろう(山田和樹・指揮者)「音楽・評伝」(四六判・600頁・五二〇〇円)

精神科医がものを書くときほか全32編

中井久夫集4 《統合失調症の陥穽》

1991-1994



精神科医・中井久夫が半世紀にわたり世に届けつづけたことばの数々を年代順に編む好評のシリーズ第4巻(全11巻)。本巻には、表題作ほか「隣の病い」「Y夫人のこと」「精神病棟の設計に参与する」等を収録。

顔写真のこと／精神医学と階級性について／私に影響を与えた人たちのことなど／家族の方々にお伝えしたいこと／一医師の死／ハンガリーへの旅からある少女／私の外来治療／危機と事故の管理／治療文化論再考／霧の中の英国経験論 ほか。解説・最相葉月。「精神医学・エッセイ」(四六判・344頁・三四〇〇円)

ジャコモメッテイ展

豊田市美術館へ巡回

8月下旬に来場者10万人を超えた大回顧展「ジャコモメッテイ展」は、愛知県の豊田市美術館に会場を移して、10月14日(土)から開催されます。本紙6月15日号で紹介しましたD・シルヴェスター「ジャコモメッテイ 彫刻と絵画」(武田昭彦訳)は、刊行までいましばらくお待ち下さい。

新批評からロマネスクへ

ロラン・バルト著作集8 《断章としての身体》

1971-1974

みすず美術カレンダー 2018

のご案内

バルザック小説の記号分析『S/Z』を最後に、『サド、フリーエ、ロヨラ』を刊行『彼自身によるロラン・バルト』を書きながら、バルトが文学の理論家からロマネスクの批評家になる時期である。自伝的ロングインタビュー、未刊の長編論考「エクリチュールについての変奏」と「テクスト(の理論)」、帰国後発表した「では、中国は?」など、彼の変化に光を当てる三篇を収めている。「わたし」を用い、断章形式を獲得するさまは、感動的と言ってよいだろう。「文学批評・現代思想」(A5変型392頁・六四〇〇円)



犬 (1913年)

「書騎士」をカンディンスキーとともに結成した画家、フランク・マルクの作品を収めた「マルクのまなざし」をお届けします。小社では来春、マルクとパウル・クレーの対話から生まれた葉書、絵、写真などの貴重な資料を編んだ『クレー＝マルク 交感のしるし』(仮題)を刊行予定。現在品切中の『新版 クレーの日記』も、改めてお求めになれるよう準備中です。ご期待下さい。

みすず書房 営業部だより

月ごとに名著 名作を紹介しているNHKのテレビ番組「100分de名著」。過去には、V・E・フランクルの『夜と霧』、レヴィ・ストロースの『野生の思考』など紹介していたいただきましたが、今月はハンナ・アーレントの『全体主義の起原』を取り上げています。この本が選ばれた背景には様々な要因があると思います。トランプ大統領誕生の後、アメリカでベストセラーになったこと、映画『ハンナ・アーレ

ント』のヒットも影響しているのかもしれない。今回、半世紀近くわたるこのロングセラーに手を加え、新版として刊行しました(本紙三面にご案内)。さらに先まで読み継がれるために生まれ変わった名著を、ぜひ書店店頭にて、お手にとっていただければ幸いです。今年の東京国際ブックフェアは中止となりました。読者の皆様との交流の場として長年、出版を継続してきた弊社としては、残念な気持ちでいっぱいですが、来年再開されることを願っています。



新装版 9月

リズムの本質

クラゲス 「リズム」とは何か? 「拍子」とは違うのか? ユニークな思索を展開。杉浦 實訳 ¥2700

モンテーニュ エッセイ抄

驚きの読みやすさ! と絶賛され、モンテーニュのイメージを一新させた一巻本。宮下志朗編訳 ¥3000

アウグスティヌスとトマス・アキナス

ジルソン/ペナー 対照的な個性のキリスト教思想家が目ざしたものは何か。服部・藤本訳 ¥4200

大気を変える錬金術

ハーバー、ボッシュと化学の世紀ヘイガー 物質変換の科学がもたらした繁栄と大禍。戦慄の化学史。渡会圭子訳 白川英樹解説 ¥4400

ダンテ『神曲』講義

今道友信 哲学の仕事の傍ら文献を渉猟し読み続けてきた成果。〈詩人哲学者〉ダンテの世界。¥14000

みすず書房 近刊のお知らせ

11-1月の刊行予定から

- サルは大西洋を渡った
- A. デケイロス 柴田裕之・林美佐子訳
 - 先駆者ゴッホ 小林英樹
 - 特殊時代の終焉
 - M. レヴィンソン 松本 裕訳
 - イングリッシュネス
 - K. フォックス 北條文緒・香川由紀子訳
 - ジェネリック
 - J. グリーン 野中香方子訳
 - 幕末的思考 野口良平
 - ウィーコ論集 上村忠男
 - アイリーン・グレイ P. アダム 小池一子訳
 - ベンヤミン/グレーテル・アドルノ往復書簡
 - ローニッツ/ゲッテ編 伊藤・鈴木・三島訳
 - 知性改善論・短論文 スピノザ 佐藤一郎訳
 - 歴史家の展望鏡 山内昌之
 - 新版 クレーの日記 [愛蔵版] 高橋文字訳
- (ウェブサイトにのご案内 <http://www.ms.co.jp>)

みすず書房・最近の重版より

- 死 V. ジャンケレヴィッチ 仲澤紀雄訳 ¥7800
- 死すべき定め—死にゆく人に何が出来るか
- A. ガワンデ 原井宏明訳 ¥2800
- 働く患者 1964-1983
- 中井久夫集 1 ¥3200
- 手話を生きる
- 斎藤道雄 ¥2600
- 子どもたちの階級闘争
- ブレイディみかこ ¥2400
- ベルリンに一人死す
- H. ファラダ 赤根洋子訳 ¥4500
- 人生と運命 1
- B. グロスマン 齋藤弘一訳 ¥4300
- ソミア—脱国家の世界史
- J. C. スコット 佐藤仁監訳 ¥6400
- 大不平等—エレファントカーブが予測する未来
- B. ミラノヴィッチ 立木勝訳 ¥3200
- 一般システム理論—その基礎・発展・応用
- L. v. ベルタランフィ 長野敬・太田邦昌訳 ¥4800